

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	彦根市立旭森小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	2	26	35
児童数	132	132	127	132	129	123	4	779	

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力を基盤とした、確かな学力の育成」
 - 個のよさを生かし 自らの生き方をつくり出す基礎・基本の確実な定着 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

授業実践部 (1、2年国語・算数、3～6年国語、算数、理科)
 1・2年生：国語、算数(系統性が強く、確実な習熟が必要であるため)
 3～6年生：国語、算数、理科
 (系統性が強い国語、算数では個人差が大きくなるため)
 (理科では、児童の興味・関心、多様な発想、課題解決方法に応えるため)

少人数授業を中心に、個のよさを引き出し、個の要求に応えるための教材開発や指導方法、指導体制の工夫改善
 ・教科の基礎的・基本的な内容の確かな定着を図るための学習展開、学習形態の開発
 ・幅広い学習課題を設定し個々の問題解決に応じられる学習形態や関連資料の開発

地域連携部 (全校児童)
 1～6年：生活、社会、総合的な学習の時間、特別活動等
 (本校のとらえる「確かな学力」が、地域でも発揮できるようにするには、全教育課程を通して育てることが必要であるため)

学校・家庭・地域が一体となって児童の生きる力をはぐくむための連携のあり方と活動内容の工夫改善
 ・課題解決能力が地域などで発揮される場の開拓
 ・学びの姿の発信による家庭や地域への啓発と連携

校園一貫教育部 (全校児童)
 1～6年：国語、算数、総合的な学習の時間、特別活動等
 (児童の発達課題を明らかにして上で、その指導のあり方を研究することが必要であるため)

保育園・幼稚園・中学校との連携により児童の連続的な学びの姿の追跡と小学校の役割や責任の究明
 ・子どもの発達課題の洗い出し(生活習慣 学習習慣 学習意欲)
 ・国語と算数の習熟度調査による、定着度、習熟度の把握と追跡調査
 ・学習習慣、意欲の調査による子どもの発達課題の把握と指導法の検討
 ・教師同士の連携、子ども同士の交流活動

(2) 年次ごとの計画

平成14	テーマ『生きる力を基盤とした、確かな学力の育成』 - 個のよさを生かし 自らの生き方をつくり出す基礎・基本の確実な定着 - 仮説
------	--

年度	<p>児童が最低限身につける学習内容を厳選し、問題解決の力を習得する場を設定することで、児童は生きる力を基盤とした確かな学力を身につけることができる。</p> <p>研究内容・方法 研究主題に迫るために3部会に分かれ授業実践・調査追跡活動・地域連携活動など幅広い研究を目指す。</p> <p>(1) 授業実践部・少人数授業などを中心に、個の能力に応じた指導や個のよさを引き出し個の要求に応える指導のための教材開発や指導方法・指導体制の工夫改善に取り組む。</p> <p>(2) 地域連携部・学校・家庭・地域が一体となって児童の生きる力をはぐくみ「学力」を向上させるための連携のあり方と活動内容の工夫改善に取り組む。</p> <p>(3) 校園一貫教育部・保育園、幼稚園、中学校との連携により児童の連続的な学びの姿の追跡と発達課題の把握により小学校教育の役割や責任の究明を目指す。</p>
----	---

平成15年度	<p>テーマ『生きる力を基盤とした、確かな学力の育成』 一個のよさを生かし 自らの生き方をつくり出す基礎・基本の確実な定着－研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校内外で出くわす課題に対して、問題解決できる力」こそが、「確かな学力」であるにとらえ、全教育課程を「確かな学力」の向上を図る場として位置づける。 ・国語、算数、理科において少人数指導の時間を多くとり、授業場面における意図的・効果的・効率的な指導を心がける。 ・「問題を解決していく力」を育てる場を学校内外に求め、特に地域との連携を密にする。 ・子どもの育ちを継続的にとらえ、生活基盤・学習基盤の確立と「確かな学力」の定着をめざして、保育園・幼稚園・中学校との連携を深める。 <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かな指導で、基礎的・基本的な事項や自ら学び自ら考える力を身につける教科等の基礎・基本を明確にする。 <p>(2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める。 ・一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばす。 <p>(3) 評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身につけさせる。 <p>本年度は、「確かな学力」についての研究をさらに明確にするために、3つの面からとらえることを実践してきた。</p> <p>「確かな学力」を授業場面というポイントでとらえてみとる。 「確かな学力」を家庭・地域の広がりでもとらえてみとる。 「確かな学力」を育ちの道すじから、発達課題としてとらえてみとる。</p> <p>研究の内容・方法は昨年度の継続を図りつつも、子どもの変容をみとる際に、本校でもとらえる「確かな学力」に照らして評価する活動が必要であると考へたのである。</p>
--------	---

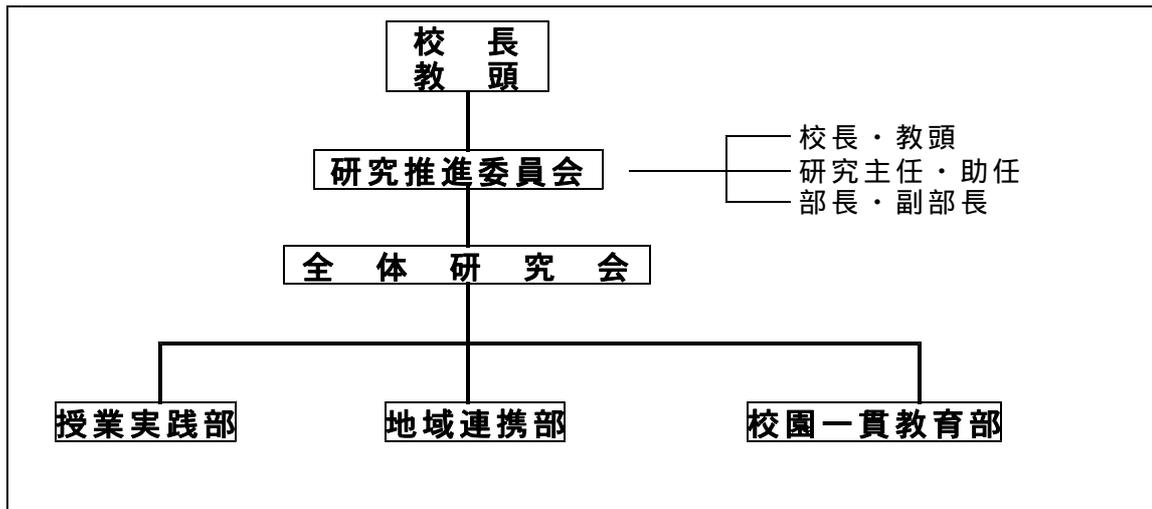
平成16年度	<p>テーマ『生きる力を基盤とした、確かな学力の育成』 一個のよさを生かし 自らの生き方をつくり出す基礎・基本の確実な定着－研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数、理科における少人数指導の有効性をさらに研究し、子どもの個人差に対応できるきめ細かな学習を積み上げる。 ・「確かな学力」を学校と共に育てるという意識を地域に広げ、連携を図る研究を進める。 ・子どもの12年間の育ちを継続的にとらえ、「確かな学力」の定着をめざして、保育園・幼稚園・中学校との連携を一層深める。 ・全教育課程における研究であることをふまえて、研究的視点に立つ
--------	---

て教育活動の目標と評価を見直す。

研究の内容・方法

- (1) 「育てたい力」を明確にして、発展的な学習や補充的な学習などきめ細かな指導のための指導方法・指導形態の開発
・きめ細かな指導で、基礎的・基本的な事項や自ら学び自ら考える力を身につける教科等の基礎・基本を明確にする。
- (2) 目標と指導と評価の一体化を目指した指導の実現
・学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める。
- (3) 子どもの学習意欲を把握して、主体的に学習する姿の実現に向けた指導の工夫
・広く学びの機会を得て、意欲や習慣が身につけられるようにする。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 各教科における少人数指導の有効性

<国語科>

「話す・聞く」「書く」「読む」などの力が身につくように「学び方を指導する」ことが重要である。

<算数科>

内容が系統的に積み上げられているので、子どもの習熟の様子を的確に把握し、補充的な指導を位置づけた指導計画を作成することが重要である。

<理科>

学習意欲が「既習経験や知識の量」と関係しているので、自然の事象に対する問題意識の個人差に対応する指導が重要であると考えている。

指導構想を立てる際に、「育てたい力」「予想される子どもの個人差」「子ども個々に対応する指導の手だて」がはっきりと示されるようになり、授業研究の場でもその点に議論がしぼられている。

(2) 地域で発揮される確かな学力

地域における子どもの姿のみとりを通して、「地域で一層発揮される力」として次の内容を取り上げ「人間関係力」と定義づけた。

思いやり 感謝 規範意識 コミュニケーション能力 計画力

全校で取り組む課題として「人間関係力」を育てることを共通理解し、それぞれの学年で「人間関係力」を育てる場と方法について協議を進めることができた。

2. 今後の課題

「確かな学力」に迫る3つの視点

教育課程全般にわたる研究を通して、次の3つの視点をもって教育活動の目標や評価の検討をしなければならないことがわかった。

- 子どもの学力の主体性・自立性
- 子どもにとって普遍的な学力
- 子どもに学力をつける際の適時性

すべての教育活動を上記の3つの視点でとらえると、本当に「確かな学力」が子どもの身につくのかどうかははっきりしてくる。

本校の教育活動を3つの視点で見直すことで、「本当に旭森小学校の子どもに学力をつける活動であるのかどうか」「旭森小学校の子どもに確かな学力をつけるためにどう改善すればいいのか」がわかってくるはずである。

この3つの視点による見直しをくぐってこそ、旭森小学校の子どもにとって必要な教育活動、つまり「特色ある教育活動」となるものと考えている。

学力等把握のための学校としての取組

基礎学力の習熟度調査（5月）

国語の漢字1年～6年まで各10問ずつの問題で実態を調べた。

算数では、数と計算領域の問題を中心に各学年のつながりのある内容で実態を調べた。

生活習慣・学習習慣・学習意欲調査「くらしのアンケート」（5月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会の開催実績及び開催予定

- ・平成15年6月5日（木）第4地区研究協議会
公開授業 6年 国語科 「作品と出会う、作者と出会う」
- ・平成16年2月19日（木）第4地区研究協議会
公開授業 3年 国語科 「想ぞうをふくらませて書こう」

地域・家庭との連携紙「ネットワーク」の発行

「家庭・地域とともに進める開かれた旭森小学校教育推進委員会」

「家庭・地域への提言として」

「一人ひとりの学びを大切に」「学ぶことが楽しければ知的欲求がわき学力は高まります」

「子どもたちに危険予知の力を」「地域は第二の学校を合言葉に」

「地域で力を発揮した夏休み」「恒例の行事の中に子どもの役割を」

「人間関係を築くたてわり活動」「心をつににした色別応援合戦」

「お子さんの睡眠時間足りていますか」

「家庭学習はできていますか」「一日にどれくらい勉強すればよい？」

地域連携協議会、地区別懇談会

地域連携協議会（年2回開催） 学校、地域代表、PTA

地区別懇談会（各町に場所を移して、保護者と教師が懇談）

次の項目ごとに、該当する箇所にチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|----------------------------|-------------------|------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
13～18学級
25学級以上 | 7～12学級
19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導
一部教科担任制 | TTによる指導
その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | 算数
図画工作 | 理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 | 無 | | |